卒業式

Molly Journal50
2006.3.8

先週は津西高校の卒業式でした。昨年も出席しましたが、今年は実際に私が教えた生徒たちが卒業していく姿を見る初めての式でした。

2004 年に初めて日本に来た時、私は 2 年生を教えていただけでした。最初は大変でした。というのもどうやって教えたらいいのか、どうやって高校生と接したらいいのか分からなかったからです。しかし私が受け持ったすべてのクラスの生徒達は、我慢強く私についてきてくれました。時折生徒達に申し訳ないなと思うこともありました。それは私の授業はまじめ過ぎて、会話やそのほか何か楽しいアクティビティをやるよりも 5 段落組の小論文の書き方を教えていたからです。多くの生徒は私がやろうとしていたことが理解できなかったでしょうし、ほとんどの生徒にとっては、小論文を書くことは楽しいことではなかったでしょう。しかし彼らは一生懸命やってくれました。昨年の 4 月から私は授業のスタイルを変えてみました。今は生徒達が英語を使って楽しめるように会話のアクティビティを多くやっています。私は時々、昨年の 2 年生達とこのような練習ができていたらよかったのになぁと思うこともあります。しかし面白いアクティビティがなくても彼らはとても良い生徒でした。いくつかの学校での授業の経験が増えるにつれて、初めて教えた生徒達がどんなに私に親切だったのかということに改めて感謝しています。彼らは 3 年生になって、大学入試の勉強で忙しくなり、彼らを教えることはありませんでしたが、彼らが卒業してしまうのは寂しいです。

先日、京都の大学の国際学科に進学することになった生徒と話しをしていたところ、彼女は、私が日本で英語を教えているように、いつか外国に行って日本語を教えることが出来るよう、外国語を勉強したいと言ってくれました。彼女は以前には全くそのような事を言っていませんでしたが、彼女からその言葉を聞いた時は、私は誇らしく、またうれしく思いました。昨年彼女のいたクラスで、私が教えることに非常に緊張していたり、授業が上手く出来たと思っていなかったりしても、彼女は明らかに私から学んでくれていたのです。それは、いつも心を開いて、新しい環境で新しいことへ挑戦する情熱を持ち続ける、ということです。この出来事には励まされました。なぜなら、英語にあまり興味のない生徒でも、英語以外の別のことも含めて私から学ぶこともあるかもしれないという意味もあるからです。私の初めての生徒達が津西高校を去っていくのを見るのは寂しいですが、それと同時に彼らが皆、より大きな、やりがいのあることに挑戦していく姿をうれしく思います。